

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175200104		
法人名	有限会社 エボック		
事業所名	グループホーム ひかり館		
所在地	網走郡大空町女満別中央37番地23		
自己評価作成日	平成24年7月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和顔愛語」を基本理念に、職員一同笑顔を大切にご利用者様らしさと幸せを追求した介護サービスを提供します

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosib/information/public.do?JCD=0175200104&amp;SCD=320&amp;PCD=01">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosib/information/public.do?JCD=0175200104&amp;SCD=320&amp;PCD=01</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年9月24日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地を有するグループホーム ひかり館は、閑静な緑豊かな環境に立地する2階建て1ユニットで、時折、リスやキツネなどの動物が見られ、心和む安らぎを感じる雰囲気になっています。居間兼食堂の前には大きなテラスが設置されており、日光浴やシャボン玉を楽しんだり、冬はイルミネーションを飾るなど、憩いの場として活用しています。基本理念「和顔愛語」を目標とし、8月に施設長、管理者が事業所のあるべき姿を考え定めた新しいひかり館理念を職員は共有し、利用者のその人らしさを追求した介護の実践を目指しています。施設長は人材育成にも熱心で職員の外部研修参加は知識や技術取得の機会だけではなく、気分転換、モチベーション向上に繋がっています。また、管理者も自らの研修を通じて介護の専門性を高め、良いと感じたことは意欲的に取り入れ、職員と共に利用者の視点に立ち、利用者本位のケアに努めています。今年度、車いすの方も乗れる車両が購入され、行動範囲も広がり、近郊の観光地や買い物、ドライブ、町のお祭り、盆踊り等、積極的に出かけるなど、外出支援に大きな力を注いでいます。また、歌謡ショー、踊り、お化粧ボランティアや授業の一環として高校生ボランティアの受け入れも多く、地域との繋がりを大切にしています。一日を通して利用者の表情は穏やかで、会話や明るい笑い声が聞こえており、地域に開かれたひかり館になるよう前向きに取り組んでいます。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会議などで改めて基本理念の再確認することで実践につなげています	「個人を尊重する感情豊かな生活 心身共に健やかな生活 想像、創造する地域との交流を生かす」をひかり館理念に掲げ、職員全員で共有し、具体化に向け取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会などで事業所の活動報告等を行うことで地域の皆様のご理解と、開かれた事業所作りを目指している	職員は地域に根ざす大切さを認識しており、町のイベントに出かけたり、近隣住民が敷地内の畑を手伝ってくれるなどで交流を深めています。また、歌謡ショー、踊りの慰問、JA婦人部の差し入れ等は利用者の楽しみになっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談や見学に来られた地域の皆様にはいつでもご相談にのれる環境づくりに努めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行うにあたり活動報告ばかりでなく、前回の会議から活かされた反省や新たな取り組みをサービス向上に活かしています	メンバーは自治会長、民生委員、町担当者、地域住民、家族代表等として、4・9月に開催し、活動報告、行事予定、研修報告などで意見交換を行い、サービス向上に生かしています。また、会議を有効に活用し、避難訓練を実施することで成果に繋がっています。	地域の理解と協力が得られる貴重な機会として、今後もメンバーが参加しやすい工夫をすると共に、定期開催を目指し、更なるサービスの質の向上を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃のサービス内容の確認や情報の共有を目指し市町村担当者とは日頃より連絡をとらせていただき助言等をいただいています。	町担当者や包括支援センター、保健師、栄養士とは日常的に事業所の運営状況や利用者の状態に応じて相談、助言を得ており、協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などにより再確認及び認識を高める事により取り組んでいます	身体拘束、虐待については全体会議の中での内部研修、資料の読み合わせを通じて職員は共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。利用者の状態変化によるリスクについては家族と話し合いを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修等において注意・防止に努めています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度などを活用しその方にあつたご支援をしています。また、日常業務からそのような制度を知る機会を作っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解納得いただいた上で契約を行っています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会・通信などで呼びかけていますが、そのほかにも定期にご家族と連絡を取りご意見ご要望が聞き取れるよう働きかけています	利用者一人ひとりの生活や行事、定期の受診結果は毎月発行する通信で伝えています。また、意見、要望は運営推進会議や家族の来訪時に必ず声をかけ、何でも言ってもらえるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会にてご家族代表者には参加を呼びかけ意見提案をいただけるよう機会を設けています	月1回の定例会議には施設長や管理者も参加し、意見、要望を聞く機会になっています。また、管理者は日頃から常に職員に問いかけ、意見を聞くよう取り組んでいます。	今回の自己評価はケアマネージャーが職員の意見を聞きながらまとめ作成していますが、サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、ケアの振り返りや専門性を育てる事でも全員で自己評価に取り組むことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務士から話を聞く機会を設けるなど、職場環境・条件などの把握・整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がスキルアップできるよう年に一回以上外部研修を奨励。その後内部研修に繋がるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や地域の事業所主催の研修の積極的な参加を通しサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中はもちろん、アセスメントや毎月のモニタリングにて利用者に対し右記に関することを把握することに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来館の際には必ず声をかけるようにし、利用者の近況を伝えながらご家族の声を聞いています。ご家族が遠方若しくは忙しく来館できないときは電話にて同様に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを同時に行う事により、ニーズを引き出す事に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での利用者職員との良好な関係からそのような関係を築けていると思われま。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際はご家族と利用者様の時間を大切に出来るよう配慮すると共に、行事への参加の呼びかけなどご本人の支えをご家族とともに支援できるよう心がけています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が以前から通われていた美容室へいけるよう支援したり、ご家族以外のお友達などの面会もご本人が望まれているときは来館できる旨を伝えていきます。	今まで利用している美容院や馴染みの店への買い物、趣味のパッチワークが継続できるよう支援しています。知人の来訪も歓迎し、お茶を飲みながら楽しい時間になるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、行事の参加を呼びかけたり交流の場が持てるようご支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもいつでもご相談の出来る環境作りに努め、退所されて後も当グループホームでの思い出(写真)等を送るなど関係づくりに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書を通し、アセスメント・モニタリングにていつもご本人らしさに即したサービス内容の把握に努めています。	利用者一人ひとりの思いや意向は日々の関わりの中での様子やアセスメント、モニタリングを通して把握し、本人本位の生活の実現に向け支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントにて以前の生活環境を把握した上でご本人がここでも継続したい暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活及び定期的なアセスメントやモニタリングにおいて再確認しながら把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの話し合いと同時に、家族が参加するサービス担当者会議は難しいが、定期的に連絡を取る事により現状に即した介護計画作成に反映しています	その人らしい生活を支援するためアセスメント、モニタリングを基に利用者、家族の意見を反映させ、介護計画を作成しています。サービス内容を意識した記録になるよう個別の生活記録に介護計画が添付されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に各々の介護計画における短期・長期目標を添付する事により、いつでも職員が確認できその目標に即した記録を目標にし見直しに努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前よりなじみのある美容院通いを継続したり、その日の天候に合わせて屋外にてレクリエーションを行ったしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りへの参加など、利用者一人ひとりのニーズに合わせた地域資源の活用を目指しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のニーズに合わせて、協力医療機関を新たに依頼するなど適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者、家族の希望するかかりつけ医や訪問看護師と連携し適切な医療が受けられる様支援しています。町内の受診は事業所に対応しており、定期受診の報告も行い家族の安心に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の訪問看護をお願いする事により、医療面はもちろん時にははりハビリ的な事も相談をさせていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際も、定期に病院へ面会に行く事により医師及び看護師からの情報を得て退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの地域の終末期における医療サービスはまだ難しいものがあるが、今現在できることをご家族には伝え、医療機関との連携に努めています。	入居時に事業所の対応出来る範囲を説明し理解を得ています。地域の医療体制がまだ整っておらず終末期ケアに付いては、これからの課題ですが、計画担当者が研修に出向いたり、緊急時の連絡先アンケートを実施し体制構築に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族それぞれの緊急連絡先の把握、連絡時間などアンケートを取り緊急時は速やかな対応ができるよう周知・訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練など機会に地域住民の方及び消防の方に協力体制をお願いしています。	年2回の火災避難訓練をいずれも夜間想定で消防署の協力を得て実施しています。運営推進会議とあわせて実施したり、出火場所の設定を変える等の工夫がされています。他の災害対策や備蓄等に付いてはこれから準備する予定となっています。	避難訓練に地域住民も参加していますが、具体的な協力体制はこれからとなっています。地域住民との具体的な協力体制構築と、他の災害に付いてもマニュアル整備と共に対策を進めて行く事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導など排泄面での声かけに注意しています。	プライバシーに関わる声かけは、さりげなく耳元で行う等のプライバシー保護の認識が職員間に浸透しています。個人記録の保管も配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者各々の買い物など、希望があれば対応できる環境作りを努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人がその人らしい生活ができるよう介護計画書にも反映する事によりご支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品会社の美容部員のボランティアを受けたり、特に女性利用者が身だしなみのきっかけになる機会づくりに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特に行事食の際には利用者と職員と一緒に食事を作り食べられる機会を設けています。	管理者が、リビングで利用者の好みや要望を聞きながら献立を作成し、知人の栄養士に確認してもらいバランス、食事形態に配慮しています。時には利用者が得意料理の腕を振るっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・水分量のチェック表の作成し把握に努めると共に、持病に考慮した食事の提供の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄うがい等を励行し洗面台に各々のコップ・歯ブラシを用意する事により口腔ケアの意識を利用者さまに持ってもらうよう環境づくりに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しそれぞれにあった自立の支援を行なっています。	排泄チェック表を活用し、タイミングを図りながらさり気ない声かけで支援しています。オムツやパット類はひとり一人に合った物を家族と相談し、事業所で用意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関からの情報の把握および町の栄養士などとも連絡を取る事により、飲食物の工夫をし便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的入浴日のほかにも、ご本人の希望に即して入浴日を設定・変更することもあります。	最低週2回の入浴支援の他に毎日シャワー浴等利用者の希望に沿った対応に努めています。季節毎に入浴剤を変える等、入浴が楽しくなる様、きめ細かな支援に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望を聞きながら入眠のご支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常生活における服薬の支援はもちろん、禁忌である食品の把握など職員の周知徹底に取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸芸をお勧めしたり、季節に合わせた飾り物や余興などで気分転換を図っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	山菜取りや畑仕事は職員が協力し、自由に事業所近くを散策できる機会は設けているが、それ以外は家族の協力を得ながら行っています。	山菜取りや、近所の野菜売り場に出掛けたり、公園で話をしたり、利用者の希望や状況に合わせた個別支援に取り組むと共に、本年、車椅子を2台載せられる車を購入し、花見や買い物等遠方にも外出し、利用者を楽しみにつながっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、事務所金庫にて保管しているが買い物などがある際は所持金の把握をしていただきできる範囲の買い物ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればいつでもできることをお伝えしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物や花を生けたりなどで季節感を味わってもらったり、行事の写真を貼る事により心地よい環境づくりに努めています。	共有空間はゆったりとした造りと成っており、観葉植物や利用者の写真が飾られて温かい家庭的な雰囲気と成っています。温度、湿度等の環境整備にも配慮されています。リビングにはウッドデッキが設置され冬にはイルミネーションを飾り利用者は基より地域住民の楽しみとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階フロアがそのような居場所となり利用者同士はもちろん職員が率先して交流の場として提供できるようご支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の安全利便性はもちろん、利用者お一人ひとりの生活・安全を尊重しご自分が使いやすい家具などを使用いただいています	居室には使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ、家族の写真や好みの物を飾り、ひとり一人の個性に合わせた部屋作りとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かしたケアを心がけると共に、2階建て作りを活かし日常生活での階段の乗降などを筋力・体力維持へつなげていただけるよう支援しています。		